

【取組内容】「主体的・対話的で深い学び」を意図的に促す

【「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実】

本校においては、クラス単位で生徒情報や個人の学習内容を運営・管理できるツールを活用し、生徒の学習をより個別最適かつ協働的に行うことができるよう取り組んでいる。

右の例では、生徒の学習内容に沿った授業資料を提示し、個人の興味・関心・意欲に合った学習をサポートしている。

また、学習の参考となる動画等を学習資料として提示することで、生徒の主体的な学習を促すこともできる。

授業資料

-  前置詞の使い方演習
投稿: 2024年12月16日
-  Unit 6 Part 3 文法まとめ
投稿: 2024年12月16日
-  Unit 6 Part 1-2 文法まとめ
投稿: 2024年12月9日
-  英文のつくり方
投稿: 2024年11月25日
-  ベーシック英語
投稿: 2024年11月15日
-  動名詞・不定詞文法プリント
投稿: 2024年11月19日

進路学習スライド

イ
提出済み

通学方法: バス、JR、車

交通費
電車: 1030円
左石駅～佐世保駅: 270円
佐世保駅～早岐駅: 760円

左の例は、生徒が総合的な学習の時間に作成した成果物である。生徒がタブレット端末を用いて作成した成果物を一元管理することで、教師は学習進度を把握できる。

また、1つのファイルにおける生徒の共同編集を可能にすることで、成果物を作成する過程において良い点や改善点をお互いに話しながら活動に取り組むことができるため、協働的な学びを実現するとともに、「主体的・対話的で深い学び」を意図的に促すこともできる。

【取組内容】 情報活用能力の体系的な育成

【情報活用能力の育成】

文部科学省が示す情報活用能力の要素は右の通りである。本校では、これらの情報活用能力の要素をバランスよく育成することを目指し、体験や活動を通しての学びや調べ学習について、総合的な学習の時間にスライド形式にまとめることを推進している。

スライド形式でのまとめ作成にあたっては、まず、情報収集や整理・分析（A 知識及び技能）を行う。それらの情報をもとに、受け手の状況等に応じて、表現・発信（思考力、判断力、表現力等）する必要がある。作成したスライドを共有することで、受け手を意識して情報を取捨選択するなど試行錯誤し、改善しようとする態度や多角的に情報を検討しようとする態度（学びに向かう力、人間性等）を身に付けることができる。このような体系的な情報活用能力の育成に向けて、3年間を見通して取り組んでいる。

		分類
A. 知識及び技能	1	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 ①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解
	2	問題解決・探究における情報活用の方法の理解 ①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解
	3	情報モラル・情報セキュリティなどについての理解 ①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解
B. 思考力、判断力、表現力等	1	問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む） 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力 等
C. 学びに向かう力、人間性等	1	問題解決・探究における情報活用の態度 ①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度
	2	情報モラル・情報セキュリティなどについての態度 ①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度

* 「学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成」より引用

【取組内容】 チャット機能の利活用

【校務DX（GIGA環境を活用し教員の働き方改革につなげる取組）】

本校では、校務DXの一つとして、チャット機能の活用に取り組んでいる。教職員全員をチャットに招待し、その中で連絡事項を共有する取組である。

この取組によって、紙媒体での起案等を省略し、ペーパーレス化を実現するとともに、会議等での提案文書を削減することで時間を短縮し、教材研究等の時間に充てることが可能となった。チャットについては、個人の端末で確認することができ、時間や場所を問わず連絡事項の伝達が可能となった。

また、出退勤システムを電子データで一括管理することで、ペーパーレス化を実現するとともに、勤務時間や部活動の指導における時間の合計を瞬時に計算して可視化することが可能となった。



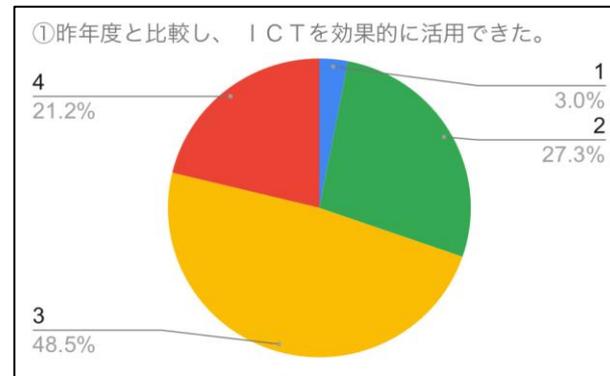
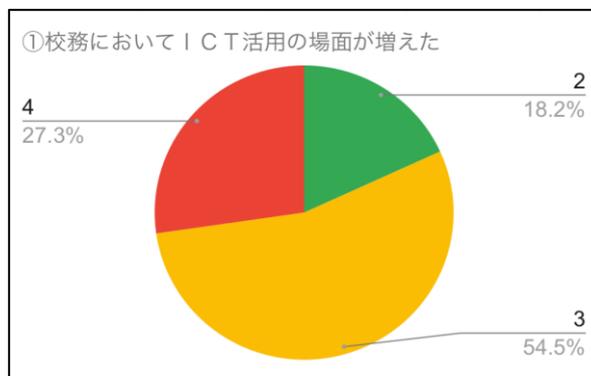
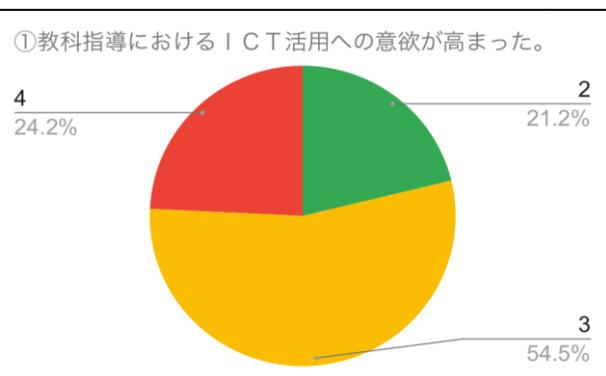
日付	出勤時刻	退勤時刻	休前等	欠失等	出張等	差控	振替	勤務時間 勤務予へ過時間(※)	時間外勤務時間	時間外勤務時間 (過算計)	時間外勤務時間 (月累計)	時間外勤務理由	備考
1日(金)	7:24	19:03						11:39/8:30	3:09	13:09	3:09		
2日(土)										13:09	3:09		
3日(日)										0:00	3:09		
4日(月)	↑※2 19:00	16:00						3:00/0:00	3:00	3:00	6:09	部活動 3時間	
5日(火)	7:23	19:01						11:38/8:30	3:08	6:08	9:17		
6日(水)	7:09	19:25						12:16/8:30	3:46	9:54	13:03		
7日(木)	7:23	17:40						10:17/8:30	1:47	11:41	14:50		
8日(金)	7:24	18:30						11:06/8:30	2:36	14:17	17:26		
9日(土)										14:17	17:26		
10日(日)	↑※2 9:00	12:00						3:00/0:00	3:00	3:00	20:26	部活動 3時間	
11日(月)			年休(1日) 1日							3:00	20:26		
12日(火)	7:34	19:00						11:26/8:30	2:56	8:56	23:22		
13日(水)	7:34	18:59						11:25/8:30	2:55	8:51	26:17		
14日(木)	7:41	17:45						10:04/8:30	1:34	10:25	27:51		
15日(金)	7:29	19:26						11:57/8:30	3:27	13:52	31:18		
16日(土)	↑※2 9:00	13:00						4:00/0:00	4:00	17:52	35:18	部活動 48時間	
17日(日)										0:00	35:18		
18日(月)	7:20	18:54						11:34/8:30	3:04	3:04	38:22		
19日(火)	7:33	18:28						10:55/8:30	2:25	5:29	40:47		
20日(水)	7:46	18:41						10:55/8:30	2:25	7:54	43:12		
21日(木)	7:37	13:44						8:07/8:30	0:00	7:54	43:12		
22日(金)	7:18	19:40						12:22/8:30	3:52	11:46	47:04		
23日(土)										11:46	47:04		
24日(日)	↑※2 9:00	12:00						3:00/0:00	3:00	3:00	50:04	部活動 38時間	
25日(月)	7:24	18:40						11:16/8:30	2:46	5:46	52:50		
26日(火)	7:39	19:03						11:24/8:30	2:54	8:40	55:44		
27日(水)	7:31	19:04						11:33/8:30	3:03	11:43	58:47		
28日(木)	7:27	18:26						10:59/8:30	2:29	14:12	61:16		
29日(金)	7:32	19:15						11:43/8:30	3:13	17:25	64:29		
30日(土)										17:25	64:29		

【取組内容】 校内研修を通してICT機器の活用を意識づける

【指定校の努力目標として掲げた実施内容】

4月当初は、教科指導や校務、学級経営等における職員のタブレットの利活用は十分ではなかった。そのため、本年度は7割以上の職員が前年度と比較してICT機器を意識的に活用できるようにするために、前述の校務DXに関する取組に加え、ICT機器活用に関する校内研修を行った。

具体的には、「ICTの効果的な活用」を視点とした授業研究や外部講師を招いての現職教育、ドリルソフトの活用方法についての伝達講習を行った。その結果、教科指導・校務におけるICT機器の活用については約8割の教員が活用の意識を高めており、昨年度と比較した際、「ICTを効果的に活用できた」と回答した職員は、7割以上という目標を達成することができた。



【取組内容】 デジタルホワイトボードソフトで授業研究

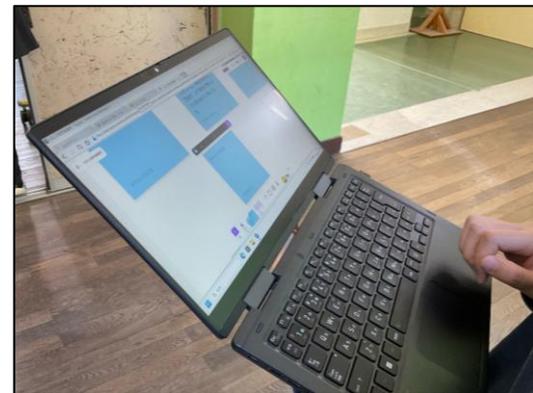
【校務DX（GIGA環境を活用し教員の働き方改革につなげる取組）】

前述の取組に加えて、デジタルホワイトボードソフトを用いた授業研究にも取り組んだ。研究授業の際には、右の写真のように学習指導案と視点の枠が貼り付けられた画面に、授業を参観した際の気づき等を付箋で貼り付ける。

デジタルホワイトボードソフトを用いることで、従来の付箋等に書き込んで貼り付けるという作業時間を短縮することができ、効率よく話し合いを進行できる。

また、模造紙や付箋を準備する時間を削減することができ、ペーパーレス化を実現するとともに、教員の働き方改革につなげることが可能となった。

（外部からの参観がある場合も、デジタルホワイトボードを共有することが可能である。）



授業を見ていただきながら、各セクションに気づきの付箋を貼っていただけたらと思います。その際、付箋を改善点や疑問点などで色分けしていただけたらと思います。

*付け足せていない付箋につきましては、研究協議までお願いします。

改善点

良かった点

疑問点

アドバイス

単元について

視点① 協働的な学びについて

単元計画について

視点② 主体的な学びについて

本時について

視点③ ICTの効果的な活用について